

『交通・都市整備・文化スポーツ事業編』

《公共交通》

公共交通の利便性アップ○

JR 利府駅発着便の増便と、新公共交通システム「利府町版 mobi」の実証運行などによって公共交通の拡充を図っています。

新道路整備計画を推進○

令和7年3月に策定した道路整備計画に基づき、将来のまちづくりを見据えた道路網の構築に努めています。

《都市整備》

リフノス第2期整備計画推進○

原油価格や資材、人件費等の高騰を受け、整備事業費が当初予定額を大きく上回る見込みであることから、稼働率や収益率の調査・分析を行うとともに、第2期整備に係るアンケート調査を実施し町民意向の把握に努めています。

旧役場跡地の利活用○

中央児童センター「ベアクル」は令和6年3月にオープン。(旧)十符の里プラザ跡地は、町民からの請願書の提出を受けワークショップを開催しています。

新市街地の整備推進○

仙塩広域都市計画の改正を受け、人口増加の受け皿として、町内3地区（俣沢、菅谷・沢乙、新中堀・新宮ヶ崎）約200haを一般保留地区に位置付けました。

町営住宅の建替計画○

令和7年2月から、PFI手法の活用により、老朽化した町営住宅85戸の集約建替工事に着手しています。

《芸術・文化・スポーツ振興》

「東京2020オリンピック」レガシー事業○

聖火リレーコースをメインとした清掃活動を実施しています。

芸術文化振興事業の充実○

時代に即した新たな事業

新たな文化創造○

モータースポーツについては、利府ラリーを5回、TGRラリーを4回開催するほか、TOYOTAやSUBARUによるカーボンニュートラル出張授業、JAFグッドドライバーズレッスンの開催など、他の施策や事業にも広がりを見せ成果をあげています。
スポーツ流鏑馬については、1年目のデモンストレーション、2年目の第1回大会、3年目の第2回大会を経て、利府うまうま祭実行委員会にその役割を引き継ぎ、新たなスポーツ文化の創出に努めました。

『経済振興（アフターコロナ対策）
農林水産業支援』編《経済振興・地域経済活性化町内雇用促進》
東部地区をはじめ、企業誘致を継続推進○

しらかし台IC周辺地区（沢乙）にDPL仙台利府とDPL仙台利府Ⅱ、松島海岸IC周辺地区（赤沼）にTAAトヨタユーゼック、利府中IC周辺地区（森郷）にホテルルートイン利府がオープンしています。

中小・小規模事業者支援施策○

中小企業金融支援、ふるさと納税返礼品開発等支援など各種事業において事業者の支援に努めています。

起業・新事業創出施策○

新事業チャレンジ応援事業などの実施により起業家等の支援に努めています。

《農林水産支援》

「利府梨」のブランド化、6次産業化推進○

補助金を活用した梨農家の支援、利府高校生と地域おこし協力隊のコラボによる新商品開発などを支援しています。

特産物、農産物を守り、育てていく施策を促進○

地域おこし協力隊（梨づくり）の任用、各種団体との連携によるミツバチ育成事業、利府No.1酵母を使用した新商品開発事業に取り組んでいます。

「海」という観光資源を活かす新事業を展開○

地域おこし協力隊（海業）の任用、お試し移住体験の実施、浜田地区まちづくり協議会への支援、馬の背周辺環境整備事業等により、海のある町としての新事業に取り組んでいます。

『教育・少子化対策・福祉』編《教育》

子どもたちの学力向上○

学校教育専門員による教職員向け各種研修・授業研究や町は一つの学校の理念に基づく教育連携に努めています。

給食費無料化○

ふるさと納税を活用し、令和5年度は小学校6年生と中学校3年生でスタート、令和6年度は小学校6年生から中学校3年生まで拡大し、子育て家庭における経済的負担の軽減に努めています。

グローバル教育○

ALTの増員による授業参加時数の増加、小学生向けイングリッシュキャンプ、中学生向け国内語学研修と英語ディベート授業などによって生きた英語を学ぶ機会の創出に努めています。

地域キズナプロジェクト○

町内の団体、企業等の協力を得て体験事業や交流事業を実施するとともに地域食堂事業補助金を創設しました。

《子育て世帯応援・少子化対策》

出産祝い金の支給

― 制度改正により国の「出産・子育て応援交付金」により実施されています。

不妊治療など支援拡大―

制度改正により宮城県による不妊治療検査費及び不妊治療費の助成事業として実施されています。

「待機児童ゼロ」を継続○

待機児童の発生に合わせ、サテライトを開設するなど柔軟に対応しています。

子育て世帯への水道料金補助支援策○

今後の人口増加を見込んだ制度設計と運用課題の調査・分析をしています。

児童クラブの土曜日開所

（仮）中央児童センターの整備○

土曜日開所は全ての児童クラブで実施し、給食提供も令和6年7月から長期休業中に実施しています。また、令和7年4月に中央児童センターをオープンしました。

《高齢者福祉・障がい者福祉》

見守り制度拡充○

民生委員をはじめ地域ネットワーク活用による町全体での見守りや、お元気ですか訪問事業、緊急通報システム事業、シルバーハウジング生活援助等事業、食の自立支援事業など各種事業による見守りを実施しています。

在宅医療・在宅介護をサポート○

塩釜医師会との協議、医療・介護の連携強化による在宅医療・在宅介護の一体的な支援を実施しています。

障がい者サポート施策○

これまでの助成事業や障がい者理解啓発を継続し、さらには日常生活と社会生活を総合的に支援する地域生活支援事業を実施しています。

世代間交流○

地域食堂事業補助金を創設したほか、各種団体と児童クラブ等との体験事業や交流事業を実施しています。

障がい者就労支援○

利府・宮城障がい者雇用推進企業ネットワークの創設による障がい者理解の促進のほか、就労訓練給付金の支給や障がい者雇用奨励金の創設において障がい者の就労を支援しています。

『行財政改革・安全及び
危機管理対策・感染症対策』編

《行財政改革》

行財政改革と町民サービスのさらなる向上○

職員の各種研修会等への参加促進、必要研修の実施、デジタル人材の育成、電子請求システムの導入などソフト、ハードの両面から行政改革とサービス向上に取り組んでいます。

まちの財源を確保○

ふるさと納税の寄附額増加に向けたシティセールスと未利用町有地の売却に取り組んでいます。

民間活力導入の推進○

PFI事業による町営住宅建替事業や上下水道事業の包括的民間委託など、効率的かつ効果的な行財政運営に取り組んでいます。

デジタル、SNS 専門担当を設置○

デジタル推進室を設置するとともに、民間企業からのDX推進アドバイザーの派遣を受け、業務の効率化や積極的な情報発信に取り組んでいます。

《安全、危機管理対策》

コロナウイルス対策の継続実施○

感染症分類の移行に合わせ、対象者への定期接種を実施しています。

感染症や自然災害などに備えた体制づくり○

事前の備えと歴史の伝承、訓練の実施と計画の策定、民間企業との連携協定締結などにより体制づくりに取り組んでいます。

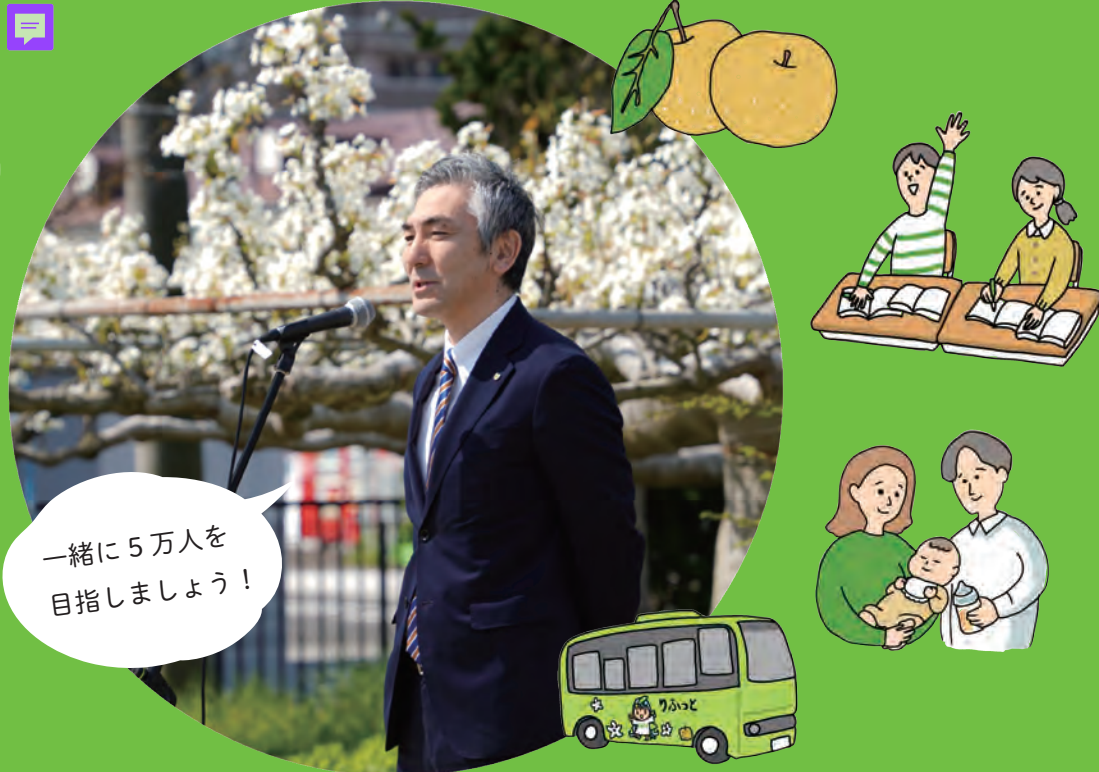
安全、安心なまちづくり○

交通安全施設及び消防施設の適正な維持管理、防犯灯全灯のLED化、消防団詰所の整備、自主防災組織の訓練活性化などによって安全、安心なまちづくりに取り組んでいます。

利府の暮らしをもっとゆたかに！

熊谷ゆたか
政策集

1期目の「利府町を知ってもらおう」施策、
2期目の「利府町に来てもらう施策、そして
3期目の「利府町に住んでもらう」施策により、「利府町」から「利府市」へ！
これまでの2期8年間でその土台をしっかりと築いてまいりました。

夢に向かってチャレンジし続けるまち
みんなの夢が叶うまち

これまでの2期8年を振り返ってみますと、元号の改元、新型コロナウイルスの感染拡大、東京オリンピック・パラリンピックの1年遅れの開催、コロナ禍やウクライナ情勢など複合的な要因を背景とする物価高騰のほか、能登半島地震や異常気象下における猛暑・酷暑、台風や豪雨の発生など、苦難と激動の連続でありました。そのような中、本町では、東北最大級の売り場面積を誇るイオンモール新利府、文化交流センター「リフノス」、中央児童センター「ベアクル」に加え、滞在型観光において長年の懸案でもありました大型宿泊施設がオープンしたほか、町民皆さんや本町にゆかりのある多くの方々が様々な場面でご活躍されるなど、嬉しい話題がたくさんありました。

これからも、初心を忘れることなく、町民の皆さまのゆたかな暮らしを願い「利府町」から「利府市」への移行を視野に夢に向かってチャレンジしてまいります。

令和7年12月吉日
利府町長 熊谷 ゆたか

“市制移行をめざす意義「メリットとデメリット」”

「なぜ、人口減少社会にありながら単独での市制移行を目指すのか？」。市制移行によるメリットは多方面に及びます。例え

ば福祉事務所の設置や障害児童福祉手当の認定・支給、生活保護の決定・実施などの事務権限が委譲され、より地域の実情にあつたきめ細やかなサービスの提供が可能になります。また、活力と勢いのある自治体として対外的なイメージや知名度の向上が図られ、ブランド力の強化や企業誘致、交流人口の拡大、雇用の場の創出なども期待できます。他にも多くの権限が委譲されることにより、国からの交付税の増額など財政面でのメリットも期待され、自立した住民密着型の行政運営につながります。さらに、他の自治体との合併等による市制移行ではなく単独での市制移行であれば、サービスの低下や住民の負担増などのデメリットは想定されません。賃貸住宅建設大手企業が実施する「住みこころランキング」等において、宮城県内はもとより東北でも常に上位に位置する本町は、財政規模間、将来性、人口増減指標などを鑑みても十分過ぎるほどのポテンシャルを持っています。

現在（令和7年10月末時点）の利府町の人口は35,873人。市制移行の要件である50,000人までは、いましばらく時間がかかりますが、高い目標を掲げ鋭意チャレンジしてまいりますので、多くの皆さまの声をお聞かせください。ぜひ一緒によりよい利府町の未来を考えてまいりましょう。

熊谷ゆたかが掲げる 102の政策

ゆたかな心

教育

- 英語教育の充実のため、小・中学校のALT（外国語指導助手）を増員します
- 学力向上につながる各種検定試験の合格率UPのため、新たな補助制度を創設します
- 国際交流の更なる拡充のため、新たな姉妹都市交流や異文化体験、ホームステイ事業などの取組を推進します
- 経済面、社会面、文化面など多方面に効果のある、大学の誘致に積極的に取り組みます
- 町教育理念である「町は一つの学校」のもと、小・中・高・支援学校と地域住民、地元企業、専門家や行政などが連携し、みんなで子どもの成長を支えるまちづくりを推進します
- 教科書では学べない主体性や創意工夫を伸ばしつつ、家族や地域の絆を深めるための環境学習、防災教育、農業・漁業体験、文化・スポーツ活動などを推進します
- いじめ対策について、学校からの要請に柔軟かつ迅速に対応できるようスクールカウンセラーを増員します
- 産後うつ対策として、相談窓口の設置やパートナーなどの積極的な家事、育児参加を促進します。

文化

- リフノス2期整備事業（大ホール）は、民間活力の導入など町民負担の軽減が図られる手法を検討します
- 脳トレに絶大な効果のある健康遊戯（将棋・囲碁・麻雀など）による高齢者の生きがいづくりを推進します
- 地域に眠っている歴史を掘り起こし、伝統文化として次の世代につないでいきます。
- リフノスやグランディ・21を活用し、様々なスポーツや音楽のイベントを開催します
- 絵画や写真などの芸術に触れる機会をもっと創出します

スポーツ

- 「スポーツのまち」として国際スポーツ大会などを誘致し、感動と喜びの共有や賑わいをつくります
- 利府町ならではのスポーツ振興と、モータースポーツ文化の定着を図るため、WRC（世界ラリー選手権大会）の誘致に取り組みます
- 町のスポーツ人口を増やすためモルックなど誰もが参加できるスポーツを推進します
- 東京2020オリンピック開催地としてのレガシー事業を展開します
- 充実したスポーツ施設を活用して「アスリート」を支援します
- 女性アスリートを積極的に支援します

健やかなくらし

子ども・子育て

- 子どもを産み育てやすい利府町実現のため、ふるさと納税を財源とし、小中学校の給食費の完全無料化を実施します
- 赤ちゃんと保護者の見守り、育児世帯の経済的負担の軽減を図るため、乳幼児見守りおむつお届け事業を実施します
- 子どもファーストによるまちづくりを行います
- 孤食の解消や地域交流の場として「子ども食堂」事業を推進します



健康推進

- 健康寿命の延伸のため、スポーツの取組を加速し、運動機会を増やします
- 65歳以上のがん検診の完全無料化を目指します
- 各種ワクチン接種の助成を推進します
- 健康ポイント事業など町独自のウォーキングイベントを実施します
- 健康増進のため、町民参加型のスポーツのまちづくりを推進します

高齢者・障がい者福祉

- 生活困窮者など町民が利用できる「地域食堂」事業を推進します
- 加齢性難聴者への補聴器購入助成事業を推進します
- 地域・民間企業・行政が連携して高齢者の見守り事業を実施します
- 生き生きと過ごせるように、カラオケ施設を誘致します
- 障がいをお持ちの方の雇用機会の確保と社会参加事業を推進します
- 誰もが輝いて働ける授産施設を誘致します
- 公園の整備に際しては、誰にでも優しいインクルーシブ遊具の設置を推進します

安心・安全なまち

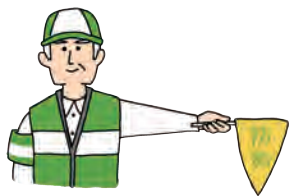
防犯・交通安全

- 不審者や特殊詐欺情報を素早く発信します
- 夜間における安心・安全確保のため、地域と連携した防犯灯の設置及び維持管理を行います
- 地域による見守り活動やPTAによるパトロール活動など、子どもたちの交通安全対策を強化します
- 住民の安心・安全向上のため、防犯カメラ設置や詐欺電話撃退機器設置の助成を行います
- 信号機や横断歩道、カラー舗装の整備など、歩行者安全対策をしっかり行います
- 防災・消防
- 消防団が待機できる詰所を計画的に整備します
- 住宅耐震補強など地震対策への支援をさらに強化します
- 警察や消防機関と連携を強化し、安全・安心なまちづくりを推進します
- 熊やイノシシ、カラスなどの有害鳥獣から町民を守るとともに、農作物等への被害低減への取組を推進します
- 新たな市街地整備においては、激甚化する水害対策と節水対策を兼ねる雨水貯水タンクの設置を支援します

賑わいのまち

都市計画

- 将来的な市制移行を目指し、新たな住環境を整備し人口増加策を講じます
- 市街地を拡大し「賑わいのあるまちづくり」を行います
- 国や県、関係機関等との連携により、市街地の拡大に伴う渋滞対策を推進します
- 高速道路や国道・県道・町道の道路基盤整備を強化します
- 渋滞対策やアクセス向上を図るため、グランディ・21周辺に仙台北部道路のスマートインターチェンジ整備を強く要望します
- 東西の均衡ある発展を考え、東部地区の開発を推進します
- 大学の誘致に取り組みます
- 戦略的な企業誘致を行います
- JR駅周辺地域の優位性を活かした新たな土地利用を図ります



農林水産

- 本町の特産品である梨のブランド化など、利府梨の付加価値を向上させます
- 利府梨を守るため後継者の育成を支援します
- 農林水産業の担い手育成と人材確保に向け、積極的な支援をします
- 浜田・須賀漁港の維持はもちろん、積極的な活用を推進します
- 農産物や海産物など、利府町が誇る地域資源を有効に活用します
- 商工観光
- 企業間交流や金融制度の利活用により、中小企業を支援します
- 住民の雇用の場創出のため、地元人材雇用の企業を支援します
- 起業・創業の核となるインキュベーション施設（貸事務所、経営ノウハウ提供施設）を整備します
- 公共施設を活用し、新たな産業分野も含めた起業・創業を支援します
- 農産物や海産物などの地域資源を生かした観光振興を推進します
- 地域に根ざした新商品開発やブランド化の促進、販路拡大を支援します
- 地域資源（歴史・文化・景観等）を活用した観光事業を展開します
- 浜田漁港背後地を活用し、地域交流や観光の拠点づくりに取り組みます
- インバウンド政策を展開し、持続可能な観光地域づくりを行います
- 文化や芸術といった日本の強みを生かした観光施策を展開します
- 新幹線車両基地（JR東日本新幹線総合車両センター）を活用した観光拠点づくりを行います
- 若年層の就業支援、定住のためのU・I・Jターン施策を促進します

住みよい住環境

環境

- 「利府町ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、脱炭素社会の実現に向けた事業を積極的に推進します
- 省エネルギーを徹底するため、LED照明など電化製品の買い替え促進事業を推奨します
- 多様な自然環境を活用した「ネイチャーポジティブ※」への取り組みを促進します ※ネイチャーポジティブ：自然再興、生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せることを意味する、2030年までの国際的な目標
- 環境指標生物である「二ホンミツバチ」を活用したまちづくりを行います
- 「利府町地域温暖化対策実行計画」の啓発・周知を強化し、利府町の優れた自然環境を皆で守っていきます
- 運送業界の再配達による温室効果ガス排出量削減のため、置き配のモニタリングを実施します
- 公共交通
- それぞれの地域やニーズに合わせた公共交通網を形成します。特に選択肢の少ない東部地区や路線バスのみで町民バスが運行していない地域における体系の見直しを行います
- 都市型ロープウェイや自動運転バスの導入など、これからの公共交通対策を積極的に研究します
- 地域と行政と企業が連携した、地域公共交通対策を実施します
- 利府駅、新利府駅、陸前浜田駅、岩切駅を活かしたまちづくりを行います
- タクシー業界と連携し「日本版ライドシェア※」の導入を検討します※日本版ライドシェア：一般の自家用車を利用して、有償で人を運ぶサービス、仙台市で実施
- 高齢者や学生、障がいをお持ちの方や運転免許を持っていない方々への新たな支援を検討します



持続可能な自治体運営

住民参画

- 政策決定プロセスに、町民の方々も参加できるようにします
- 地域課題の解決やより良い地域社会の実現のために、住民と行政が対話する機会を増やし、協力してまちづくりを進めます
- 町長との座談会・意見交換会は、より多くの方々に参加いただけるような環境整備を図ります
- 利府町と一緒に盛り上げてくれる企業や住民団体の活動を支援します
- 「利府町民会議」や「こちら町長室（小学生）」、「町への提案」など、広く住民の皆さんのご意見を伺い、協働のまちづくりをさらに推進します
- すべての住民がチャレンジできる環境を整備し、ワクワクするまちづくりを行います
- ユースカウンシル事業（概ね16歳から24歳までの若者）を立ち上げ、本町の課題に対し若者目線で提言できる組織を作ります
- 行政サービス・行財政運営
- 民間活力の導入をより一層推進し、より良い行政サービスを提供します
- 「いつでも・どこでも・簡単に。」AIとデジタルを最大限に活用した、人にやさしいスマート行政（行政手続きに係る電子申請システム拡充、デジタルデバйд対策拡充、公共施設オンライン予約・決済システムの導入検討、24時間AI相談窓口の導入検討）を強力に推進し、時代に合った行政体制の整備を強化します。
- 安定的な財源確保のため、戦略的な企業誘致を強力に推進します
- ふるさと納税・企業版ふるさと納税制度を戦略的に活用し、住民サービスのさらなる向上を図ります
- 国会議員時代の人脈と経験、町長としての実績や国・県とのつながりをフルに活用し、補助金や交付金を最大限に活用しながら、住民サービスをさらに向上させます
- 継続的な行財政改革により、効率的かつ効果的で将来にわたって健全な財政運営を行います
- 役場職員の接遇能力向上や役場窓口の環境改善を通して、より住民に開かれた利用しやすい役場に進化させます
- 役場職員の公務員倫理やコンプライアンス（法令遵守）のさらなる徹底を図り、真に住民から信頼される役場を構築します
- 住民の皆様のお困りごとを、より気軽に相談できる仕組み・体制整備を進めます
- 市制移行を見据え、町の重要政策や予算情報などを皆様に十分理解いただきながら、住民と行政が一体となって、利府町を成長、発展させていきます
- パブリックコメントやオンライン意見募集を拡充し、住民と行政双方向の連携による開かれた行政を実現します
- スクラップ＆ビルドを徹底的に実施し、未来に負担を強いらない健全な財政運営を行います

